

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム めくもりの家

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500496		
法人名	社会福祉法人奥州いさわ会		
事業所名	グループホーム めくもりの家		
所在地	〒023-0401 岩手県奥州市胆沢南都田字大持30番地		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、胆沢高齢者総合福祉施設めくもりの家の併設施設として開設21年目を迎え、法人の理念「優しく、温かく、共に生きる」の基、めくもりの家「利用者の幸せ、地域の幸せ、私たちの幸せ」の実現に向けて取り組み、地元幼稚園、小学校、個人、団体他により、地域交流スペースにおいては展示発表や各種イベントの場の触れ合いなどの交流の場となっています。また、保健・医療・福祉の各サービス事業所と連携を密にし、重度化した場合も指針に基づいて、ご家族様の要望を受け入れながら対応しています。今年の事業計画は、家族との触れ合う機会が思うように進まない状況の中、家族との絆や繋がりを大切に出来るように目指しております。また、地域に出向いて認知症の理解を深める出前講座やオープンガーデン、パンの移動販売、ブルーベリー狩り、野菜作り等、地元の方々との繋がりを持つように努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は、胆沢高齢者総合福祉施設の一環として設置されており、令和3年には職員全員で話し合って、新たな介護理念を作成している。利用者寄り添いながら残存能力を引き出し、希望の持てる未来を作ることを目標に、事業所活き活きカレンダーを作成して週ごとの紙芝居や作品づくりを企画したり、豊富な食材を調理しながら利用者の好みに応じた食事の提供、本人の思いに寄り添った趣味や野菜づくりを支援するなど、職員が一致協力して介護サービスの向上に努めている。特に、職員会議や個人面接を設けて職員の要望や意見を取り入れ、或いは、職員個人の目標を設定して職場でのモチベーションの向上を図り、活き活きとした職場環境を創出している。利用者が重症化した場合にも、きめ細かな指針のもとに本人や家族の意向に沿ったケアを推し進めるなど、利用者の生活の質の向上や介護支援の充実に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年8月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム むくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	奥州いさわ会「法人基本理念・方針」を毎月1回全職員で会議の前に唱和している。また、グループホーム介護理念を掲示し職員の意識統一や実践を目指している。	令和3年当初に、職員全員で新たなグループホームの介護理念を作成し、利用者への介護水準の向上に努めている。具体的には各年度で事業目標を定め、利用者への寄り添い、残存能力の引き出し、家族とのつながりの促進などを掲げて、ケアの充実に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナの影響により地域に出向いての様々な交流は出来ていない。同法人、キッズクラブの児童たちと暑中見舞いや年賀状にメッセージを載せてお互いの交流を深めている。	事業所は南都田第14部落内にあり、以前から法人広報誌を全世帯に配布して情報提供を行うとともに、コロナ禍前には出前講座として認知症等の講義を行っていた。また地域の児童クラブとのハガキ作成を通じた交流、保育園などの運動会や学習発表会への見学等、活発な交流が図られていたが、現在はコロナ禍の影響で縮小している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献事業として、地域に出向いて認知症や看取りに関する出前講座を行い理解を深める活動をしている。令和4年度は、コロナの影響により延期している状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所に関する生活状況の報告、外部評価、事業計画・報告を行い、助言や意見を頂きながら、さらなるサービスが向上出来るように運営に活かしている。今年度の事業計画として家族とのつながりを大事にするため、ハガキを作成しているが、ご家族様の意見を取り入れてケアの質向上を目指している。	人との対面が貴重な取り組みと考え、2カ月に1回対面での会議を開催している。今年度の事業目標を家族とのつながりとしたこともあり、ハガキに利用者本人直筆の添え書きを載せ本人の笑顔の写真を添付する取り組みについて、運営推進会議に提案し委員から意見をいただいている。「母の字を見て嬉しかった」と利用者の娘さんから返信をいただくなど、運営推進会議と連携しながら、利用者ケアの充実に努めている。	事業所での利用者の安全を図るため、事故報告のみならず、ヒヤリハットに関する状況の把握も軽視出来ないことから、今後、日常の業務で発生するヒヤリハットの状況も整理し、運営推進会議に報告して委員から意見を得るなど、リスク対応の充実に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者について問題や課題が生じた時、解決に向けて、随時関係担当者や奥州市地域包括支援センターと連携を図っている。	市役所からの通知やメールは、法人の事務長が整理し、法人各所に配布して情報を共有している。介護に係る申請書は家族が提出することになっているが、困難な場合には事業所が代行する場合もある。毎月1回開催される地域ケア会議には施設長が参加して情報を得ているほか、市配備の防災ラジオや市広報誌を通じ、市からの情報は常に法人内で共有している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針に基づいて、定期的に研修会を行っている。身体拘束体験学習を通して身体拘束をしないケアの必要性や職員の意識向上に向けて取り組んでいる。	3か月に1回、めくもりの家全体で身体拘束に関する会議を開催し、事業所からも1名出席のうえ作成した会議録を全員に回覧しているほか、事業所内でも、身体拘束や権利擁護などの研修を行っている。身体拘束の事例はないが、夜間に居室内で転倒防止のための離床センサーを3人に使用している。日中は、玄関に施錠はしていないが、夜10時から朝7時までは施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	各事業所に虐待防止のポスターを目に入るところに貼って意識向上を図っており、身体拘束廃止対策検討委員会を設置して三ヶ月に一回開催している。新人職員に拘束や虐待に対する体験研修を実施しており、また、職員禁句集を毎月読んで意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で日常生活自立支援制度や成年後見人制度について学び、利用者個々に検討している。昨年まで後見人制度の対象者が1名だったが、現在、いない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や加算等の変更等があった場合、または、介護報酬改定に伴う加算の必要性、料金改定の理由等について、家族に分かりやすく説明して、質問に対して丁寧に説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の掲示と管理者・受付者・職員のポスターを貼り家族へ周知している。また、担当者会議がある際は家族の意向や要望を確認しており、面会時も気軽に職員に意見や希望を話せるような関係作りを図っている。	コロナ禍以前は、毎年、敬老会を開催し談話会を実施して家族等からの意見や要望を聞いていたが、現在は事業所への面会時に意見を聴くように心掛けている。家族会は結成していないが、毎年家族アンケートを実施し、事業所の取り組みなどへの意見を募っている。家族の中にはUSBを持参して利用者の写真を複写し、来所出来ない親族に送付して喜んでもらっている人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出された意見や要望・提案は、会議録を通じて上司に報告して改善に向けて取り組んでいる。また、施設長が職員会議に参加して直接意見や助言を頂くようにしている。	職員会議を毎月開催し、事業所の申し送りノートをつくり職員全体での情報共有を図っている。職員個々のモチベーションの向上のため、年間活動の目標を設け、半年経過時に中間の面接を行い方向性の確認や変更にも助言している。個人面談は年に2回行い、職員から待遇改善、夜勤免除、介護休暇等の相談等を受けている。職員からの要望として、介護ロボットの導入、職場環境の改善、食材購入方法の変更による介護の充実など、職員からの意見を介護サービスの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、公正、公平な評価が実施されている。また、個人目標シートを作成して、職員のやる気を引き出して目標達成できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、職員研修は動画研修を取り入れながら計画的に実施している。基本的な介護技術の習得を得るため、マニュアルの定期的な見直しやロールプレイを実施し、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会の奥州・北上ブロックより研修会や講演会のお知らせは届いているが、コロナの影響により参加出来ていない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭的な雰囲気の中で、心地よく過ごせるように、受容の態度と不穏や興奮状態の時は、寄り添って話を聞いて安心できる雰囲気作りを気配りしている。また、職員間で申し送りを通して情報の共有し、ケアの統一を図っている。		

事業所名 : グループホーム むくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約や面会、担当者会議の際、本人の状態や家族の意向・要望又は、困っていることをじっくり聴いて安心して生活出来るように支援している。入所申し込みの際は、グループホームの生活を詳しく説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで生活していた方が状態の変化があり、医療的ケアが必要になった場合、主治医や訪問看護との連携を図りながら、ご家族様の要望を受け入れて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑の野菜作り、花の世話、掃除、調理等、利用者一人一人が出来る範囲で役割をもって共に暮らして、生きがいを感じて頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お便りを作成し、利用者の写真を添えて、日常生活の様子を報告している。今年は利用者から手作り絵ハガキを家族に送り、絆や繋がりを大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、窓越し面会を通して家族と過ごす時間を大切にしている。難聴の方への対応として、スピーカーを設置し談話できる環境を整えている。	コロナ禍の前には、毎年、お盆過ぎに希望する利用者には、日帰りでゆっくり里帰りしていたが、現在はお墓参りを短時間で済ませ、中には実家の仏壇を拜んで来る方もいる。また、利用者の中には、本人好みのヘアスタイルを希望する方もいて、以前からの訪問理髪師に来てもらい整髪する場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生活習慣や思いを大事にして職員間で情報を共有し、孤立せず共に支え合える雰囲気作りに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族等に対して、契約が終了したその後の相談や支援に応じている。また、利用者の思い出のDVDを家族に届けて、ご家族様より栽培した野菜を頂く等、継続的に関係性を大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの意向や思いを大切に寄り添うケアに取り組んでいる。本人に確認できない場合は、面会時又は電話で連絡した際、ご家族に確認して関わりを多く持っている。	本人や家族からの要望は、申し送りノートに記入して職員間で共有している。また、夏場に利用者と一緒にスーパーに同伴する際には自由に買い物かごに入れてもらい、お花好きの方にはオープンガーデンに誘っている。本人の残存能力の向上を図るため、編み物を好む利用者には積極的に働きかけて、仕上がったマフラーを家族にあげて喜んでもらっている。そのほか、ゲーム、習字、畑仕事、食事づくりでの野菜切り、盛り付け、掃除等々、利用者本人の希望、能力を存分に生かせる支援に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接や契約時に家族や本人聴取している。また、日常生活の中で利用者とコミュニケーションを図りながら知り得た情報など家族に確認したり、記録に残して職員間で情報を共有して、より良いケアを目指している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌への記録の他、申し送りノートを活用して情報の共有を図り、一人ひとりの生活様子を把握できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、支援経過を担当職員が入力しており、アセスメントやモニタリングを充実させながら、24時間シートを活用している。また、課題がある時は、職員会議の場で認知症の勉強会を行い事例を全職員で検討し、ケアプランの見直しや周知を図っている。	介護プランは、原則6ヵ月に1回の見直しとしており、居室担当者とケアマネジャーで原案を作成し、職員会議で全職員から意見を聞いて決めている。担当者が毎日パソコンに入力する際にアセスメント項目をチェックし、モニタリング評価は管理者が作成している。法人の看護師、主治医、或いはリハビリ担当者からの意見は、プランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録「排便状態・気分行動・メモ生活・受診・水分量」を記録して職員間で情報の共有をケアに活かせるようにしている。ケア記録を確認しながら、状態の変化がある場合は、ケアプランの見直しをしている。			

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム むくもりの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市の委託に伴い施設内に地域包括支援センターが設置され、更に連携体制が整っている。様々なニーズに対して廊下で繋がっている病院の訪問看護や訪問診療を受け入れており、健康福祉課と連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により市立図書館に利用者が好みの本を借りに行けなくなって、移動図書館に依頼をし、現在、月1回、紙芝居を届けてもらっている。また、パンの移動販売を通して自ら選んで購入する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って支援している。廊下で繋がっている、まごころ病院「内科・外科・整形外科・歯科」へ受診されたり、長年のかかりつけ医で診てもらうため、家族対応で精神科に受診されている方もいる。	利用者9人全員とも一般的な治療は隣接の病院で受診し、若年性認知症、眼科、皮膚科については家族同伴で専門医療機関で受診している。専門医療機関で受診の場合、家族を通じ本人の生活情報等を主治医に伝え、診断結果は家族から職員が聞き取り利用者台帳に入力し、他の職員も情報を共有できるようにしている。年1回、予防医学協会を利用者の健康診断を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、介護職と看護職が連携を密に行い、異常の早期発見・速やかな対応ができるようにしている。他事業所の看護師や隣接の病院の訪問看護師と連携も図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合、職員が頻繁に状態の把握に努めている。また、家族と主治医と話し合う機会を設けて、回復状況や早期退院に向けて、情報の交換等を行っている。		

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針について、家族に説明し同意を得ている。本人や家族の意向を尊重した看取りケアを実施しており、安らかに最期を迎えるように、医療機関との連携を強化して対応している。また、病院受診時、主治医から説明を聞いて家族の意向等を確認している。定期的に急変時のロールプレイを行い、速やかに対応できるようにしている。	事業所では、利用者が重症化した場合の対応指針を作成し、本人や家族に説明して了解を得ている。これまでに3件の看取り実績がある。法人全体で看取りの研修会を実施したり、看取を必要とする状況になった場合には、職員会議で不安とすることなどを出しあいながら勉強会を実施している。特別養護老人ホームの看護師によるエンゼルケアの研修会も設けている。利用者の葬儀には弔電を出したり、弔問にも参列し、在りし日の利用者を思い忍んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、全職員対象にAED研修を実施している。また、必要に応じて誤嚥時の対応、緊急時の対応や吸引器の取り扱い、行方不明の緊急事態マニュアル等についてロールプレイを定期的に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	奥州市緊急告知ラジオを設置しています。毎月14日、正常に作動するか試験を行っています。また、緊急メールテストの送信を2回、行っています。夜間想定避難訓練は、7月15日に日中、実施しました。	奥州市のハザードマップでは、事業所は洪水や土砂の災害指定地域に該当していないが、避難場所として隣接の悠悠館や福祉センターが指定されているほか、法人の特別養護老人ホームのやまゆり荘やめくもりの家が福祉避難所に指定されている。事業所の避難訓練は、今年7月に火災想定訓練を法人全体で、職員80人と地域有志の協力者を交えて実施しているほか、以前には夜間訓練として夜7時から行ったこともある。食料3日分や自家発電装置などを確保し、災害発生に備えている。	災害発生時に地域住民等からの事業所への協力体制は整備されているが、今後、地域協力者との役割分担を明確にしながら、よりの確な災害に対応できる体制の整備を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「職員禁句集」を月1回、全職員が読んでチェック表に印鑑を押すようにしている。また、スピーチロックの勉強会を実施し、認知症があっても自分らしく生活できるような接し方を工夫している。	利用者への尊厳やプライバシーを確保するため、職員個々の知識や技能を高めるため、認知症や身体拘束等に関する研修教材として動画を用い、職員は終了時に感想文を管理者に提出している。個人情報には施錠可能なキャビネットにまとめて保管しているほか、職員には利用者情報の外部への漏出がないよう徹底している。利用者からの方言での問いかけには、方言での会話をする職員も多く、心の通う介護サービスに努めている。	

事業所名 : グループホーム ぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味活動(畑作業、塗り絵、パズル、カルタ、カラオケ、散歩等)は、利用者が自由に選んで行っている。自分で出来る範囲で身の周りの掃除や洗濯物たたみ等を声がけしながら促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、その人らしさを大事にして寄り添うケアをしている。落ち着かない利用者には、本人の気持ちを尊重し、関わっている。野菜切りや掃除機掛け等、本人の意向を確認しながら勧めている。	日常生活において決まった生活パターンではなく、その人らしさを大事にして寄り添うケアをしている。落ち着かない利用者には、本人の気持ちを尊重し、関わっている。野菜切りや掃除機掛け等、本人の意向を確認しながら勧めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年代の違いがある方のヘアスタイルをご家族様より情報を得て、訪問理髪に来て頂き、ご本人らしさを活かす支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理する際、職員と談話しながら、テーブル拭き、盛り付けや野菜を切るなど、出来る限り利用者と一緒にを行うようにしている。	事業所では、利用者に調理を手伝ってもらえるよう配慮しており、週2回地元業者から配達される野菜について、それを見ながら名称を聞いたり、調理方法を教えてもらったりしている。食事の要望も利用者から聴き取り、流しそうめんや畑で収穫したスイカ割りも行っている。コロナ禍で外食を控えているため、事業所の中庭で青空会食として弁当、焼き鳥、やきいもを食べたりしている。利用者は郷土食として、かぼちゃぱつとや絹豆腐を入れただんごを好んで食べているほか、誕生日のスポンジケーキと、行事に併せた食事の機会を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎食時チェックして記録している。水分摂取がしっかり出来るようお茶を残す利用者には代替として、ホカや牛乳を提供している。また、週に一回、栄養士に検食簿の提出、月1回、栄養管理会議に栄養士が参加し相談・助言をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと就寝前の義歯洗浄・消毒の支援をして清潔保持に努めている。また、食事前の嚥下体操を実施し誤嚥防止に努めている。歯みがき指導や治療については、家族対応で歯科受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンの把握に努め、失禁を減らせるように声掛けして定期的にトイレ誘導をしている。直ぐにチェック出来るように排泄チェック表に記録し排便状態の観察をしている。	利用者個々の排泄チェック表を用いて、定期的に職員の声掛けでトイレに誘導しており、現在、排泄の完全自立が1人の他、リハビリパンツが3人、おむつ2人、その他3人となっている。現在、職員は女性だけであるため、トイレ介助の問題は特に生じていない。ポータブルトイレを使用する利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ヤクルトやヨーグルトを提供している。便秘予防のため、水分補給を促している。毎日、チューブやDVDを活用した高齢者体操を行っている。天気の良い時は達者の里公園を散歩して身体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	入浴は、予定通り実施している。熱がある時は、清拭をして身体の清潔保持に努めている。一人一人の湯かげんに気を配り長湯にならないように声掛けしている。また、歩行が出来ない利用者には電動リフトを使用して、安全・安心に入浴ができるように努めている。	入浴は週に2回、毎週日、月と水、金の午前10時からとしている。利用者に寄り添うケアを目標にして、入浴時間に一人一人丁寧に言葉がけすると、利用者からは昔の仕事や子どものことを話題にする場合が多い。入浴を楽しむために柚子湯や入浴剤を使用し、時には「北国の春」などを唄い出すこともある。現在、入浴を嫌う利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安眠できるように、利用者の生活パターンを把握して、中庭や公園等へ散歩を促すなど、両足に浮腫みがある方には、足を挙上して休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容が把握出来るように個別の薬情報綴又は薬手帳で確認している。薬は個別包にして、氏名を印字し服薬時は職員複数で確認し合い服薬している。誤薬がないようにマニュアル通り実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等から得意な仕事や趣味を把握して、役割として、テーブル拭きや洗濯物たたみ等を利用者の状態に合わせて協力して頂き、感謝の気持ちを伝えることで、いきいき生活できるように支援している。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム ぬくもりの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出を控えている。少人数で感染予防対策を取りながら、桜の花見ドライブ、オープンガーデン見学、ブルーベリー狩りなど、利用者の意向を確認しながら行った。	日常的には、事業所隣接の公園やバラ園に散歩に出かけるほか、職員の家の畑のブルーベリーを収穫してジャムを作ったりしている。その他、オープンガーデンや徳水園に出かけたり、日向ぼっこ、事業所隣接の畑に車椅子で出かけたりしている。以前、事業所に着物の寄贈があった際に、希望する利用者に化粧したうえで着てもらい写真を撮るなど、事業所内でできる利用者の気分転換も工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内に自動販売機はあるが、お金を所持し購入したい希望者はいない。利用者又は家族より要望があって所持金管理に不安がある場合は、「預かり金管理」をして、日用雑費の購入など対応することもあるが、現在、対象者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自ら自分の手帳を持って受話器のダイヤルを押して自宅に電話できるように支援している。また、今年は家族とのつながりを大切にするため、手作り絵ハガキに本人のメッセージを書いて頂き郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作成した作品を飾り季節感を感じてもらえるようにしている。玄関には、プランターに花を植えたり、ソファや長椅子を設置し、気軽に話しやすい居心地良い雰囲気作りをしている。冬はコタツを作り、くつろいで頂いている。ご家族様より手作りつるし雛やソープリフラワーなど、送られた物をご本人の希望で食堂に飾っている。	利用者がゆったり生活できるよう、食卓テーブルや椅子、ソファやベンチを配置しているほか、テレビ、エアコン、空気清浄機は食堂と畳室にも各1台を設置している。室内の壁は落ち着いたクリーム色の壁紙で装飾され、利用者の作成した押し花の額等が飾られるなど、利用者本人が落ち着いて日中過ごせる環境が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファを設置し、気の合う利用者同士で仲良く談話したり、気軽に話しやすい居心地良い雰囲気作りをしている。また、座敷でくつろいだり、ゆったり談話できる環境を整えている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	自宅から家具やテレビなど馴染みの物を居室に 置いて、自宅と同じ家具の配置や雰囲気作りを 家族に聞きながら取り組んでいる。	利用者の居室には、ベッドや衣装ケース、テレ ビ、家具、家族写真、本棚が設置され、部屋の入 り口には本人の名前のほか飾りつけも施されて いる。家族や本人に確認してベッドや家具の配 置を決めている。暖房用のエアコンのほか、南向 きの居室には日差し除けを、東向きの居室には すだれを設置するなど、工夫した生活環境を整 備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリー・オール電化を使用して いる。毎月、危険個所のチェックをして、リスク予 防に向けて取り組んでいる。		